

団長(教育課長) 吉田 浩祥

平成25年度第21回「サマーキャンプ中学生の翼」は15人の中学2年生(女子11人・男子4人)、引率者3人により、アメリカ合衆国での12日間の研修を終え、団員は大きな成果を胸に8月9日に無事帰国いたしました。

自分の目でアメリカの文化を学びたい、ホームステイ先で英語力を試し、向上させたい、日本の良さを伝えたいなど、多くの目標を掲げて応募してくれた団員。その旺盛なチャレンジ精神をアメリカで十二分に発揮し、日を追うごとに生き生きと活動してくれた姿が何より印象に残りました。

研修前半の日程を終え、ホストファミリーとの別れの場では、ともに涙が溢れ、何時の日かの再会を約束しておりました。多少言葉が通じなくとも、団員の積極性と必死の思い、ホストファミリーの優しさから、感謝や喜びの気持ちが互いに伝わり、短期間のホームステイにもかかわらず、心が通いあったことを実感いたしました。団員にとっても貴重な体験であり、感動であったと思います。グレンロック町の人々との交流の積み重ねによる深い絆を肌で感じた瞬間でもありました。



右上/グレンロック町長と 左下/スティーブンと引率者

研修後半のキャンプ場でも、さまざまなプログラム(カヌー、水上スキー、空中ブランコ、乗馬、壁登り、アーチェリーなど)に対し、研修最終日まで余力が残っているか心配なくらい、積極的に全力投球してくれた団員の姿がありました。

今回の研修での多くの体験・交流が団員の将来に大きく役立つことを確信し、われわれ引率者も非常に爽やかな気持ちで帰国することができました。

事前に決めたルールをしっかりと守り、どんなことにも積極的に取り組んでくれた15人の団員を誇りに思うとともに、さまざまな面で今回の研修をサポートしていただきました全ての関係者の皆様に感謝申し上げ、帰国の報告といたします。

事前に決めたルールをしっかりと守り、どんなことにも積極的に取り組んでくれた15人の団員を誇りに思うとともに、さまざまな面で今回の研修をサポートしていただきました全ての関係者の皆様に感謝申し上げ、帰国の報告といたします。



小野中学校2年 赤坂 菜摘



私は「積極的に英語で話し日本との文化の違いを体験する」という目標を立ててこの研修に臨みました。一番印象に残ったのは、食文化です。アメリカの食事は日本に比べてとても量が多く、また朝からポテトやチキンなどの油ものが中心で驚きました。お菓子やジュースなども、日本に比べて甘かったです。

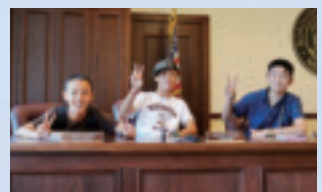
グレンロック町やキャンプ場の皆さんなど、どこでも私たちを温かく受け入れてくださいました。アメリカの子どもたちはとても積極的で、見習うべき点が多かったです。私たちを温かく迎えてくれたグレンロックの皆さんには心から感謝しています。私の一生の思い出です。



左上/キャンプ場でランチ(左)
右下/ホストファミリーと(左から2番目)

小野中学校2年 吉田 龍弥

僕の今回の研修目標は、英語力の向上と自分の人見知りを克服することでした。アメリカでは積極的に自分から話しかけることを心がけ、どんな活動でも自分から率先して行動することができたと思います。また研修ではグレンロック町内だけでなく大都市ニューヨークなどにも行って、世界の広さを実感することができました。日本の中の小野町という小さな地域にいたるだけでは何も見えないということも分かりました。



将来のためにも、いろいろなことに取り組み、知らない世界を知ることによって自分の能力を伸ばそうという新たな目標を見つけました。とても意義のある研修でした。



右上/グレンロック議場で(中央)
左下/送別会でホストファミリーと(左)